

河本美智子 ○桜井美由紀

## 2 1 st. 曾宮勝

目的 レンタルブティックが現在のファッション業界において、どのような位置にあり一般消費者の中でどの位浸透されているのかをはかるために本研究を行なった。

方法 業者とのタイアップによる資料の解析と、大学、短期大学被服学科学生（19才～22才）/00人へ向けて行なったアンケート調査。

結果 レンタルブティックを利用する客の年齢では21才～25才が最も多く、職業別にみるとOLの占める割合が高く、次いで学生となっている。また学生に行なったアンケートによるとレンタルブティックへの関心度については全体の73%が少なからずは関心があるという結果になった。そして約60%の学生が機会があればこのような店舗を利用してみたいと考えていることが分かった。その店舗側では1番利用の多い20代の女性層をターゲットとして、テレビや新聞、雑誌等の掲載PRや結婚式、卒業式シーズンに向けてのダイレクトメール等の発送により広告宣伝を展開、その効果による需要と友人などからの紹介による口コミの来店傾向は大としている。消費者でもある学生側はこのような姿勢の店舗に対して、ドレスを借りることのみについては恥かしさも抵抗も感じてはいないが店舗の場所の不明さや価格、借りた後の持参返却などへ憶くうさを覚えるという傾向がアンケート結果よりみられ、店舗側と消費者である学生との間には、このようなシステムの店舗への不慣れさが壁となって存在し合っている様子がうかがえた。この点の改良により今後ますます若者の間に影響を与えるものとする。